

## 試験研究成果普及情報

部門	花植木	対象	普及
課題名：ウィンターオーバーシーディング技術を利用した芝生中の雑草発生抑制技術			
〔要約〕芝生中の雑草発生を抑制するウィンターオーバーシーディング技術に適した寒地型芝草の品種は、ベースがコウライシバの場合はフェアウェイ及びリン、ハイブリッドバミューダグラスの場合はエコトランジット II、フェアウェイ II 及びリンである。また、寒地型芝草を 10g/m <sup>2</sup> 以上播種すると、無播種に比べ、雑草の発生を半分以下にできる。			
リーキーワート <sup>®</sup> 校庭緑化、芝、ウィンターオーバーシーディング、雑草抑制			
実施機関名	主 査	農林総合研究センター・生産技術部・花植木研究室	
	協力機関	雪印種苗（株）、パイオニアエコサイエンス（株）	
実施期間	2008年度～2011年度		

## 〔目的及び背景〕

校庭等の芝生中に発生する雑草の除草は手作業で行われており、多大な労力を要する。秋にベースとなるコウライシバやハイブリッドバミューダグラス等の暖地型芝草に寒地型芝草の種子を追い播きするウィンターオーバーシーディング技術は、雑草の発生を抑制し、省力的な雑草防除技術として注目されている。しかし、寒地型芝草の品種によっては、暖地型芝草の生育を著しく衰退させる。そこで、ウィンターオーバーシーディング技術に適した寒地型芝草の品種選定及び雑草抑制効果の高い播種量の解明を行う。

## 〔成果内容〕

- 1 コウライシバをベースとした芝生において、雑草発生の抑制効果が高く、かつコウライシバの生育を衰退させない寒地型芝草品種はフェアウェイ（雪印種苗）及びリン（雪印種苗）である（図 1、2）。
- 2 ハイブリッドバミューダグラスをベースとした芝生において、雑草発生の抑制効果が高く、ハイブリッドバミューダグラスの生育を衰退させない寒地型芝草品種はエコトランジット II（パイオニアサイエンス）、フェアウェイ II（雪印種苗）及びリン（雪印種苗）である（図 3、4）。
- 3 寒地型芝草の播種量が多いほど暖地型芝草中の雑草発生量が少なくなる。ただし、播種量が 10g/m<sup>2</sup> でも無播種区と比べ雑草の発生が半分以下となるため、慣行の播種量である 40g/m<sup>2</sup> に比べ、種子代を低減できる（図 5、6）。

## 〔留意事項〕

## 〔普及対象地域〕

県内全域

[行政上の措置]

[普及状況]

県内幼稚園、小学校、スポーツグラウンド等 30 か所

[成果の概要]

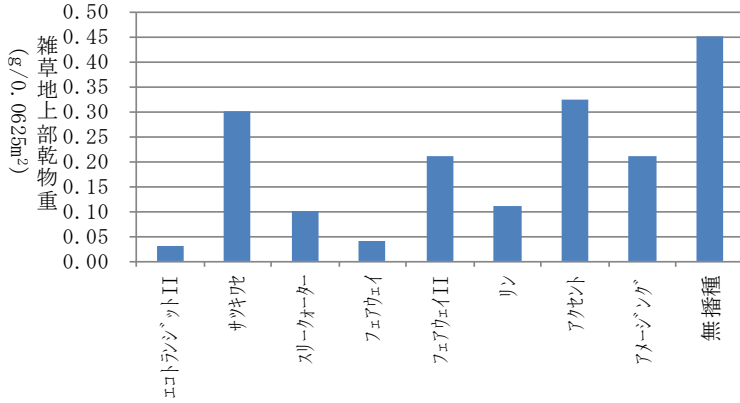


図1 コウライシバ芝生内で秋に寒地型芝草をウィンターオーバーシーディングした際の雑草地上部乾物重 (平成21年 5月19日調査)  
注) 平成20年10月21日に各寒地型芝草を40g/m<sup>2</sup>播種した

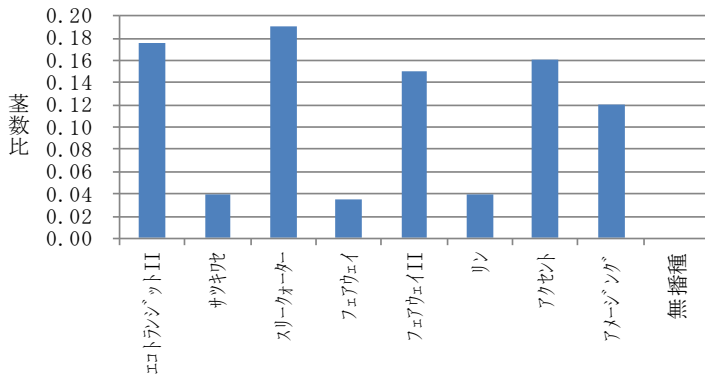


図2 コウライシバ芝生内で秋に寒地型芝草をウィンターオーバーシーディングした際の寒地型芝草とコウライシバの茎数比 (平成21年 9月28日調査)  
注1) 茎数比=寒地型芝草茎数/コウライシバ茎数  
この値が大きいほどコウライシバの生育が衰退する  
注2) 平成20年10月21日に各寒地型芝草を40g/m<sup>2</sup>播種した

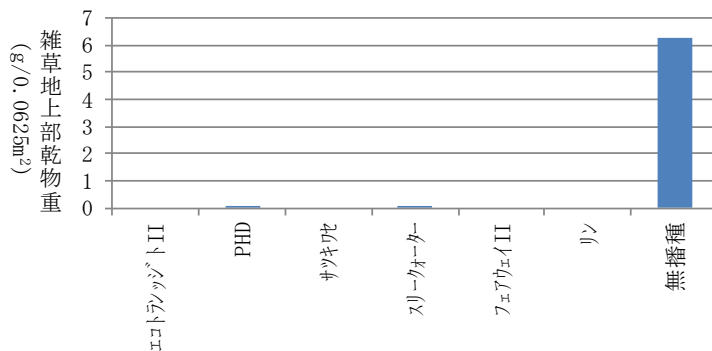


図3 ハイブリッドバミューダグラス芝生内で秋に寒地型芝草をウィンターオーバーシーディングした際の雑草地上部乾物重 (平成22年 5月12日調査)  
注) 平成21年10月19日に各寒地型芝草を40g/m<sup>2</sup>播種した

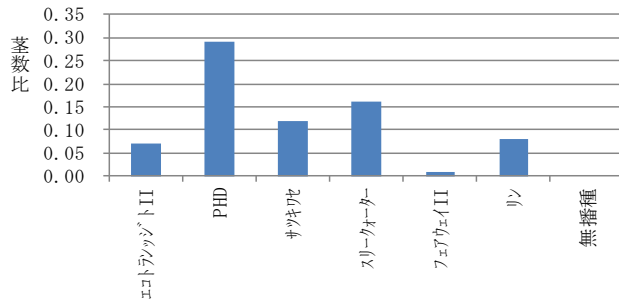


図4 ハイブリッドパミュダグラス芝生内で秋に寒地型芝草をウィンターオーバーシーディングした際の寒地型芝草とハイブリッドパミュダグラスの茎数比（平成21年8月26日調査）

注1) 茎数比＝寒地型芝草茎数/コウライシバ茎数

この値が大きいほどコウライシバの生育が衰退する

注2) 平成21年10月19日に各寒地型芝草を40g/m<sup>2</sup>播種した

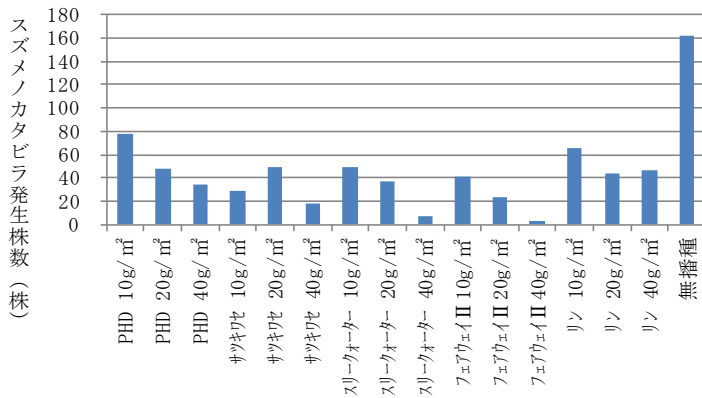


図5 コウライシバ芝生内で秋にウィンターオーバーシーディングした寒地型芝草の品種及び播種量の違いがスズメノカタビラ発生株数に及ぼす影響（平成24年3月21日調査）

注) 平成23年10月11日に各区にスズメノカタビラ種子を5L/48m<sup>2</sup>播種した

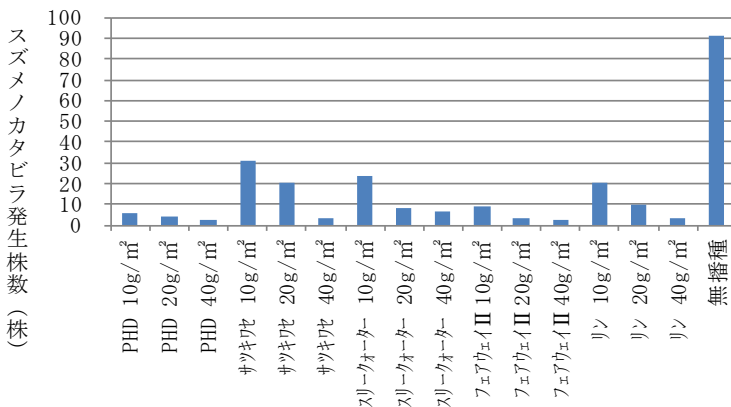


図6 ハイブリッドパミュダグラス芝生内で秋にウィンターオーバーシーディングした寒地型芝草の品種及び播種量の違いがスズメノカタビラ発生株数に及ぼす影響（平成24年3月21日調査）

注) 平成23年10月11日に各区にスズメノカタビラ種子を5L/48m<sup>2</sup>播種した

[発表及び関連文献]

[その他]